

## 郡市等医師会だより



## 大分東地区の勉強会

大分東医師会

栗林景晶

大分東医師会では、令和5年に渕野耕三先生、年が明けてからは田中雅子先生、栗林景容先生と三好博先生の訃報に接することとなりました。長きにわたり大分東地区の医療に貢献してこられた先生方のご功労に敬意を表すとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

当地区では月に1回火曜日に、大分東医師会が大分東研究会を、大分医療センターが大分東臨床懇話会を主催しております。大分東研究会の歴史は古く、2024年2月までに計292回の勉強会を開催してきました。数十年前に会が発足したころは、会員の先生方が自院で撮影したレントゲン写真を持ち寄り、読影や撮影技術の向上を目的とした集まりだったそうです。ハート会の名称で心電図の勉強もしていたと聞いております。最近までは、前半に大分医療センター呼吸器内科部長に症例提示していただき、後半に製薬会社の共催でお招きした演者にご講演いただきました。坂ノ市にある坂乃井旅館を用いていたのですが、COVID19のパンデミックにより現地開催が難しくなりました。webを利用した形であれば開催できると製薬会社から提案があり、2020年10月からweb方式で再開しました。配信会場が製薬会社の営業所など大分市中心部であることから、お忙しい大分医療センターの先生に毎月ご足労いただく訳にもいかず、レントゲンの読影はなくなりました。ハイブリッド形式も考えましたが坂乃井旅館には配信設備がありません。開催には一定程度の大きさの会場と人員が必要です。開催費用に見合うだけの参加者を見込めない場合は製薬会社のメリットが少ないこともあり、ハイブリッド形式での開催は見送りました。大分東研究会の開催形式について大分東医師会理事会で協議しましたが、web形式だと参加しやすいとのご意見が多く、大分東研究会は主にweb方式での開催を続けております。

一方、大分東臨床懇話会はハイブリッド形式で、前半は救急症例検討会、後半は講演があり活発な質疑応答が行われております。現地参加ご希望の先生はぜひ大分東臨床懇話会に足をお運びいただきたいと思っております。

以前は研究会を行う際に共催いただく製薬会社を探すことに苦労はありませんでしたが、近年、国の医療費抑制の影響なのか、講演会の予算がつかない製薬会社が増えています。時代とともに、場所、メンバー、内容や開催形式の変遷がある大分東地区の勉強会ですが、多くの先輩方が繋いできた会を終わらせるわけにはいかないとの思いで続けております。大分東医師会員に限らず、多くの先生のご参加をお待ちしております。